

レストレスレッグス症候群 (RLS) への試み

～ α 1MG除去率からのアプローチ～

(医) 援腎会すすきクリニック

○入谷麻祐子、萩原喜代美、二階堂三樹夫、鈴木翔太

鈴木一裕

【アンケート調査】

それぞれの質問をよく読み、あてはまるものは**Yes**へ、あてはまらないものは**No**へ、チェックをしてください。

1 脚に不快感や違和感があり、じっとしてられず脚を動かしたくなる。

Yes No

2 その不快感や脚を動かしたい欲求は、座ったり横になったりするなど
安静にしているときに起こる、あるいは悪化する。

Yes No

3 その不快感や脚を動かしたい欲求は、歩いたり脚を動かしたりすることで改善する。

Yes No

4 その不快感や脚を動かしたい欲求は、日中より夕方や夜間に強くなる。

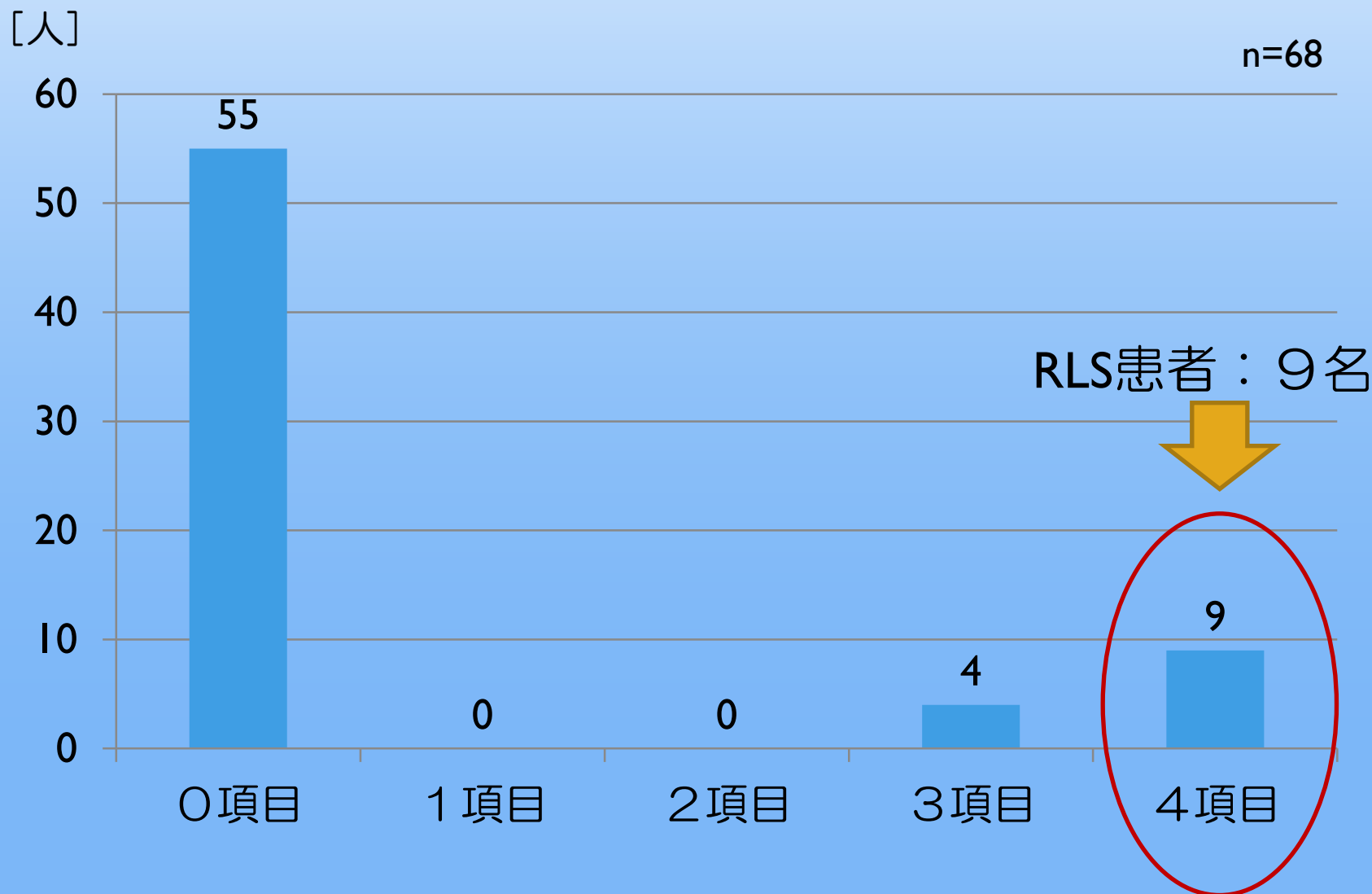
Yes No

編集：井上雄一、内村直尚、平田幸一

「レストレスレッグス症候群〈RLS〉—だからどうしても脚を動かしたい」

アルタ出版、2008年

【当院におけるRLS患者数】



【RLS重症度スケール】

レストレスレッグス症候群の重症度スケール

IRLS (International Restless Legs Syndrome Rating Scale)

レストレスレッグス症候群の重症度を評価するスケールのひとつ。

患者さんの症状について、患者さん自身が答える10の質問からなる。各項目は症状により0～4までの5段階で採点する。

評価方法	～10点	軽症
	11～20点	中等症
	21～30点	重症
	31点以上	最重症

レストレスレッグス症候群 RESTLESS LEGS SYNDROME

姓 月 日 お名前 担当医:

以下の10の質問にお答え下さい。各質問の最も当てはまる症状の点数をご記入いただき、合計の欄へすべての点数の合計をご記入下さい。

- 1 脚の不快感**
この1週間を全体的にみて、レストレスレッグス症候群による脚や腕の不快感は、どの程度でしたか？
とても強い 4点 強い 3点 中等度 2点 弱い 1点 全くなし 0点 点
- 2 動き回りたい欲求**
この1週間を全体的にみて、レストレスレッグス症候群の症状のために動き回りたいという欲求はどの程度でしたか？
とても強い 4点 強い 3点 中等度 2点 弱い 1点 全くなし 0点 点
- 3 動きによる脚の不快感の軽減**
この1週間を全体的にみて、レストレスレッグス症候群によるあなたの脚または腕の不快感は、動き回ることによってどの程度おさまりましたか？
全くおさまら 4点 少しおさまった 3点 おおむねおさまった 2点 全くおさまらな 1点 レストレスレッグス症候群による症状がなかった 0点 点
- 4 睡眠障害**
レストレスレッグス症候群の症状によるあなたの睡眠の障害は、どの程度ひどかったですか？
とても重い 4点 重い 3点 中等度 2点 軽い 1点 全くなし 0点 点
- 5 疲労感、悪気**
レストレスレッグス症候群の症状によるあなたの疲労感または悪気はどの程度ひどかったですか？
とても重い 4点 重い 3点 中等度 2点 軽い 1点 全くなし 0点 点
- 6 全般的症状**
全体的に、あなたのレストレスレッグス症候群は、どの程度ひどかったですか？
とても重い 4点 重い 3点 中等度 2点 軽い 1点 全くなし 0点 点
- 7 症状発現頻度**
あなたのレストレスレッグス症候群の症状は、どの程度の頻度で起こりましたか？
とても頻繁 4点 頻繁 3点 時々 2点 たまに 1点 全くなし 0点
(1週間1～4回) (1週間1～2回) (1週間1回) (1週間0～1回) (1週間0回)
- 8 症状のレベル**
あなたにレストレスレッグス症候群の症状があったとき、平均してどの程度ひどかったですか？
とても重い 4点 重い 3点 中等度 2点 弱い 1点 全くなし 0点
(24時間のうち、8時間以上) (24時間のうち、3～8時間) (24時間のうち、1～3時間) (24時間のうち、1時間未満)
- 9 日常生活への影響**
この1週間を全体的にみて、レストレスレッグス症候群の症状は、あなたが日常的な生活をする上で、どの程度影響しましたか？たとえば、家族との生活、家事、社会生活、学校などは、仕事などについて考えてみてください。
とても強く影響した 4点 強く影響した 3点 中等度影響した 2点 軽く影響した 1点 全く影響し 0点 点
- 10 気分障害のレベル**
レストレスレッグス症候群の症状について、たとえば、涙が立つ、ゆううつ、悲しい、不安、いらいらするといったようなあなたの気分障害はどの程度ひどかったですか？
とても重い 4点 重い 3点 中等度 2点 弱い 1点 全くなし 0点 点

正典井上註 改訂 レストレスレッグス症候群 (7.10) だがご自身でも試してみたい、IRLS 改訂版 (改訂) ©2008 より改定 合計 点

【目的】

- 当院では無愁訴透析を目指している。
- 当院でRLSの症状を有する患者を対象に、
蛋白漏出型ダイアライザーを用いること
で、症状の軽減を試みたので報告する。

【対象】

対象患者	9名（当院治療中の患者68名中）
性別	男性：7名　女性：2名
年齢	63.0±6.5歳
透析歴	7年4ヶ月±7年8ヶ月
原疾患	慢性糸球体腎炎：2名 糖尿病性腎症：2名 不明：5名

【方法】

1. RLS対象患者のダイアライザーを変更する
2. 変更前後の α IMGの除去率の変化を確認する
3. 変更1ヶ月後、3ヶ月後に、再度RLSスケール調査を行い、スコアの変化を確認する

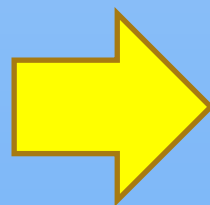
【条件変更】

HDF：1名 on-lineHDF：8名

時間：4.56時間±0.3時間

血流：270.0±24.5[ml/min]

変更前		
ダイアライザー		
TS-2.1UL	2.1m ²	IV型
TS-2.1UL	2.1m ²	IV型
TS-2.1UL	2.1m ²	IV型
TS-2.1UL	2.1m ²	IV型
RENAK-PS2.0	2.0m ²	IV型
APS-25SA	2.5m ²	IV型
TS-2.1UL	2.1m ²	IV型
PES-21SEα	2.1m ²	V型
ABH-21F	2.1m ²	HDF



on-lineHDF：9名

時間：（変更せず）

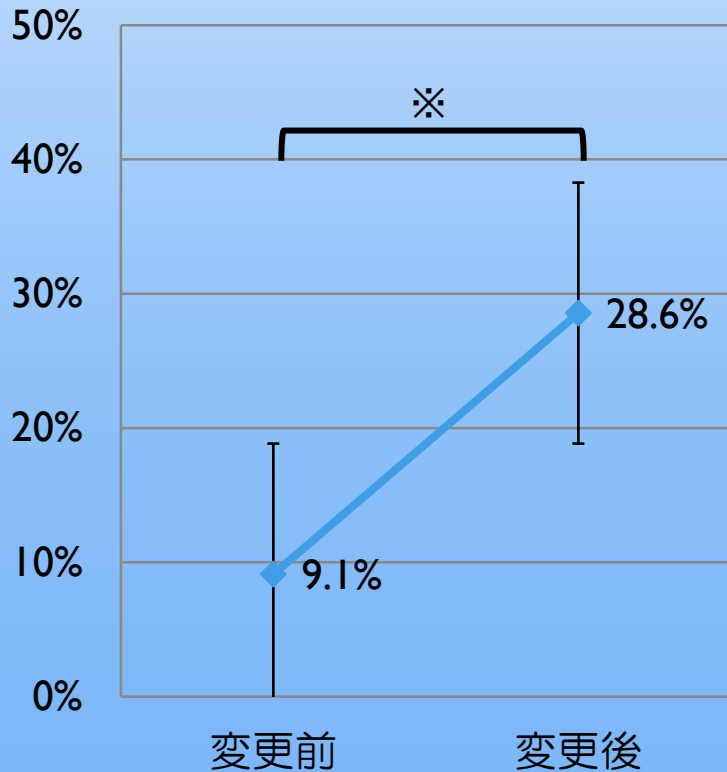
血流：300 [ml/min]

変更後		
ダイアライザー		
APS-21E <u>(補液12L/h)</u>	2.1m ²	V型
FDY-210GW <u>(補液8L/h)</u>	2.1m ²	IV型

【結果：α1MG除去率】

APS-2IE (n=5)

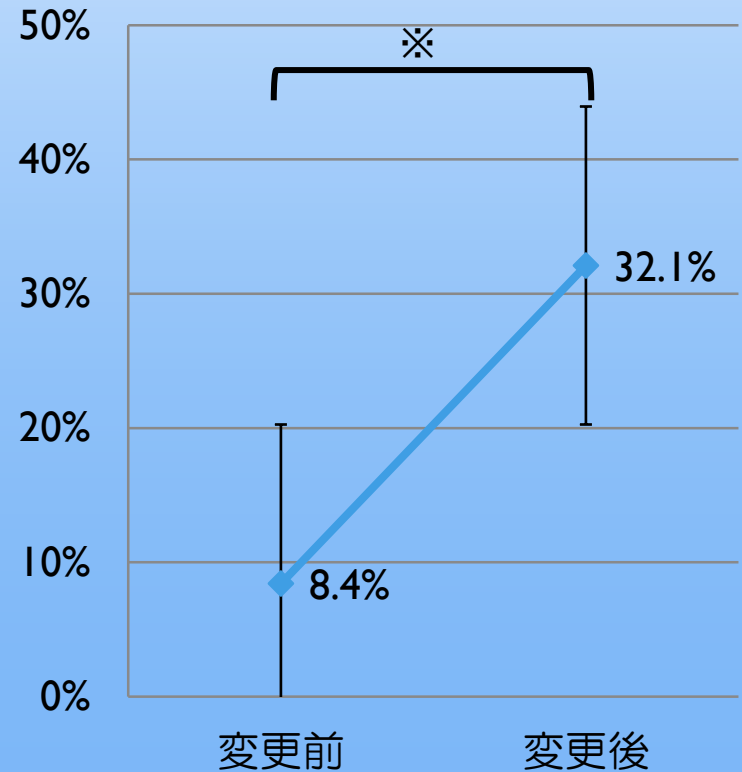
※p<0.05



Alb漏出量：3.7g

n=1

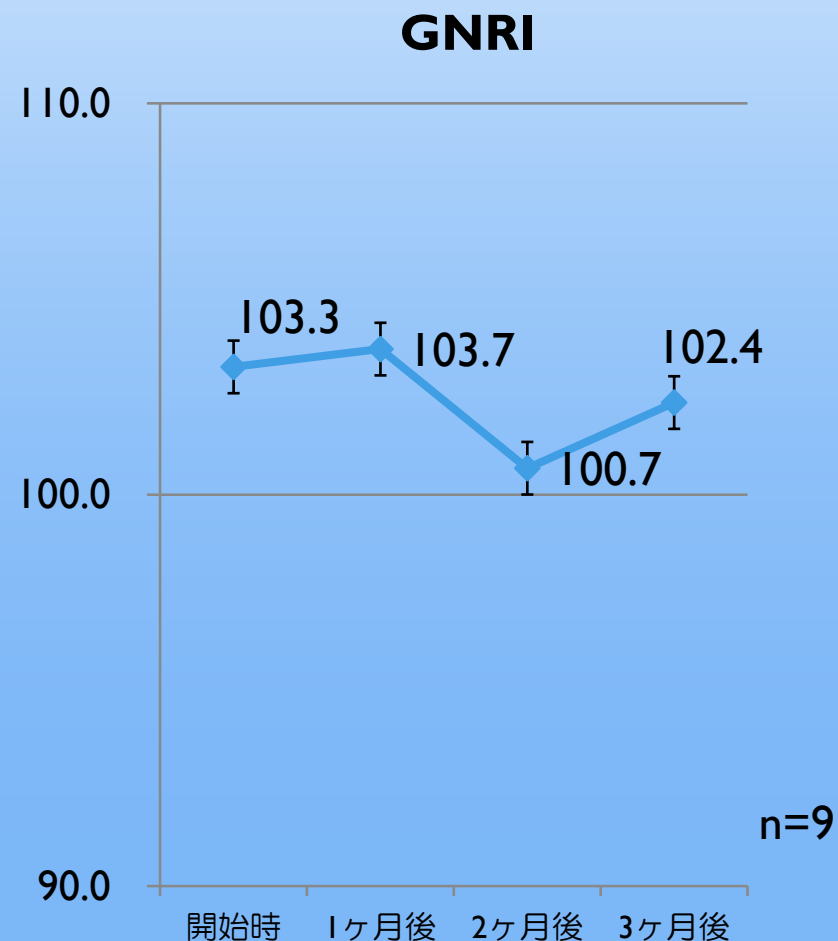
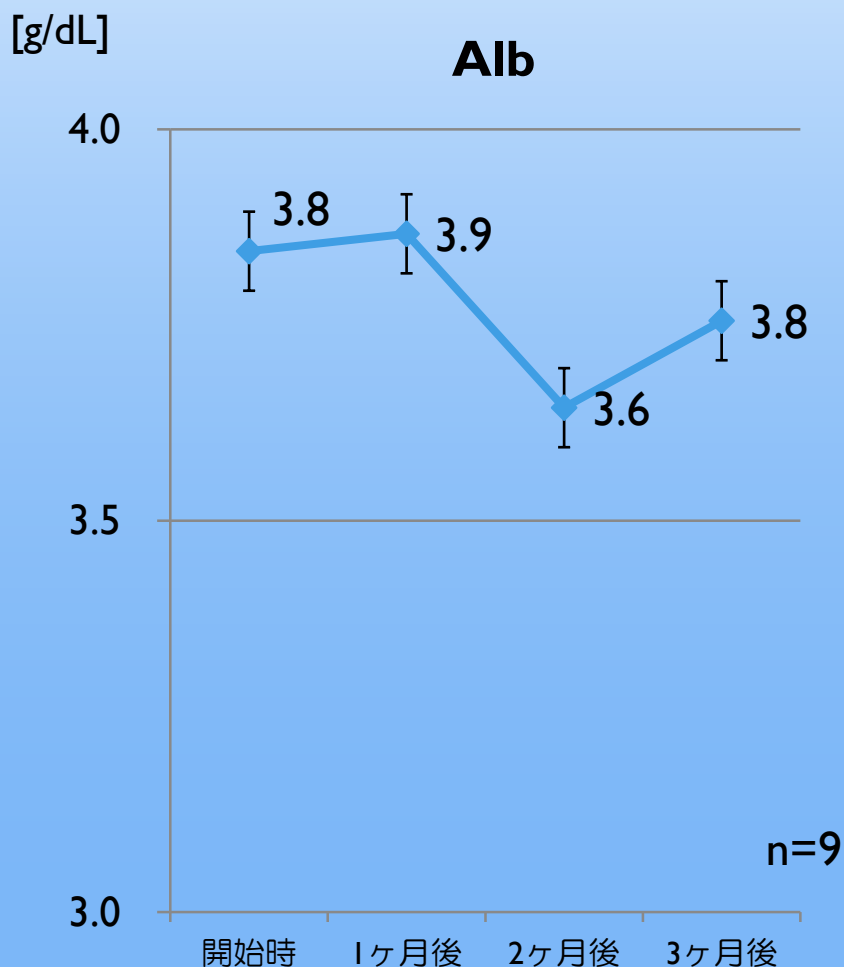
FDY-210GW (n=4)



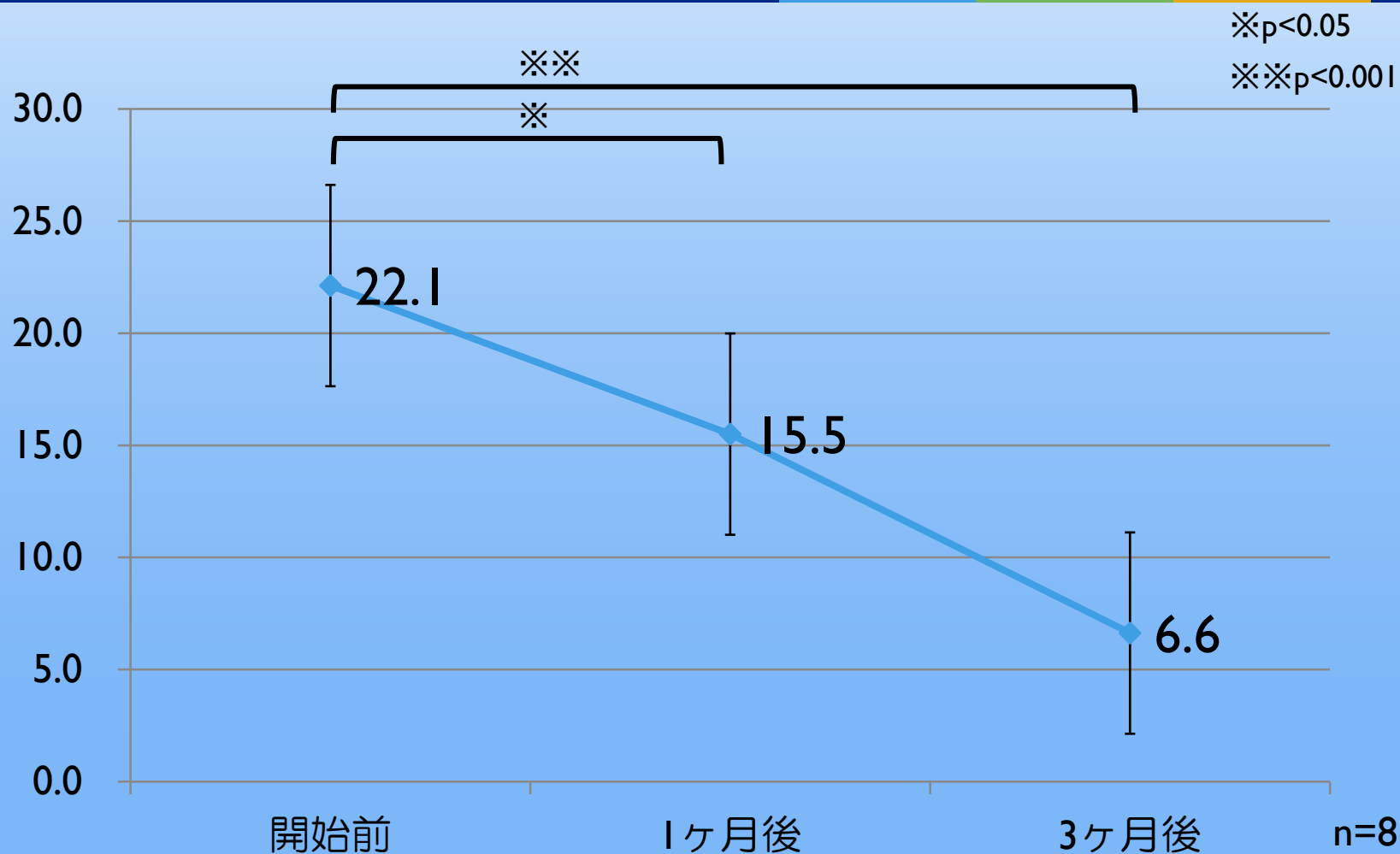
Alb漏出量：3.5g

n=1

【結果：栄養状態】



【結果：RLSスコア】



【考察】

- レストレスレッグス症候群は、身体末端の不快感や痛みによって特徴づけられた慢性的な病態であり、発生頻度は透析患者の20～40%にも達するといわれている。
- 当院におけるRLS患者は9名（全体の13%）であった。
- 補液量を調節し、Alb漏出量を3.5g程度に抑えながら、 α 1MG除去率を30%程度にあげることで、RLS症状は軽減・消失した。
- アルブミン領域にもおよぶ大分子量物質の除去効率が、RLS治療に深く関与していると考ええる。

【まとめ】

- 栄養状態に注意しながら、蛋白漏出型ダイアライザーを用いることで、RLSの症状を軽減することが可能であった。